

2019年3月3日

# 碑の記憶

いしぶみ

災害の教訓を伝えるデジタルアーカイブ「碑（いしぶみ）の記憶」公開のお知らせ

岩手日報社  
IBC 岩手放送

岩手日報社（岩手県盛岡市、東根千万億社長）とIBC 岩手放送（同、鎌田英樹社長）は11日、共同で作成したウェブサイト「碑の記憶」を公開します。地方紙の地元根拠に根差した確かな記事と、放送局ならではの高品質なVR（仮想現実）動画を融合させ、命を守る災害の教訓を次世代に伝えます。

「碑の記憶」は、岩手日報社が2018年10月に開始した長期連載です。現在連載中の「第1部 石碑編」では、岩手県内の津波被害の石碑(\*1)が伝える過去の災害の被害や教訓、周辺に生きる人たちの思い、東日本大震災で教訓がどう生かされたかなどを紹介し、防災の課題を検証しています。

災害の教訓は、時とともに風化します。東日本大震災の被災地では、震災後急速に人口減少と高齢化が進み、震災の記憶を伝える「語り部」も減っています。復興事業が終盤となり、一層震災の風化が加速する中、被災地のメディアには将来の災害の教訓を次世代に伝える責任があると考えています。

そこで岩手日報社とIBC 岩手放送は、インターネットでの発信に取り組みます。「碑の記憶」の記事を随時掲載するほか、IBC 岩手放送が制作した、あたかも現地にいるかのように被災地や石碑の状況を体感できるVR動画を配信します。

また、岩手日報社が11日に発行する特別号外の配布地（北海道、東京都、愛知県、京都府、岡山県、広島県、愛媛県）の石碑や遺構も特別編として紹介します。

さらにGoogle News Initiative(\*2)の協力で、県内外の石碑を紹介するデジタルマップや3D動画も制作します。スマートフォンやタブレット端末などを手に、現地を歩いて教訓を学べる仕組み作りを進めます。

将来は「教育に新聞を」（NIE）の一環として子どもたちの震災学習や、震災遺構を巡るトレイルツアーなどにも役立て、被災者の思いを次世代に伝える役割を果たしていきたいと考えています。

## 「碑の記憶」ウェブサイト URL

(3月11日公開、どちらからも同じページがご覧いただけます)

岩手日報社 <https://www.iwate-np.co.jp/ishibumi/>

IBC 岩手放送 <https://www.ibc.co.jp/ishibumi/>



岩手日報社



I B C 岩手放送

<お問い合わせ>

岩手日報社編集局メディア部

019-653-5611

IBC 岩手放送編成局クロスメディア部

019-623-3146

\*1 岩手県沿岸は1896（明治29）年と1933（昭和8）年の三陸大津波、60年のチリ地震津波、2011年の東日本大震災の津波などで被災し、国土交通省によると、明治と昭和、チリの石碑が225カ所に残っています。現在は東日本大震災の教訓を伝える新たな石碑が各地に建てられています。

\*2 Google News Initiative（グーグル ニュース イニシアティブ）は Google がジャーナリズムの未来を切り開くため、報道業界とのコラボレーションを推進する取り組みです。世界各地で記者・編集者向けにデジタル技術の活用に関するワークショップやパートナーシッププログラムを展開しており、テクノロジーを最大限に活用して現代のジャーナリズムを巡る課題に取り組んでいます。